

開花期が終わり、生理落果期となっています。

夏肥の施用、黒点病の防除、極早生及び早生温州の着果量を確認して粗摘果を行いましょう！

1 令和5年1～5月の気象

暖地園芸研究所における本年の1～5月の気象を表1に示した。月平均気温は、1月は前年、平年より低く推移し、2月以降は平年、前年より高く推移した。特に3月は平年より3.3℃、前年より1.7℃高かった。5月は全体的に平年並～平年より高く推移し、平均気温は18.4℃で、平年より0.5℃高かった。

降水量は2月が平年より多く、それ以外の月では平年より少なかった。1～5月の合計降水量は606mmで、平年より少なく、前年よりは多かった。

日照時間は、2月以外の月で平年より多く推移した。5月は第1、2、4、5半旬は平年より多く、第3、6半旬は平年より少なかった。1～5月の合計日照時間は930時間で、平年及び前年より多かった。

表1 令和5年1月～5月の気象（暖地園芸研究所）

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1		5.2	6.1	5.4	47	92	40	196	175	191
2		7.9	6.6	5.6	130	87	113	151	154	170
3		12.9	9.6	11.2	148	174	78	170	167	180
4		15.9	14.0	14.9	135	169	70	207	177	157
5	1	17.6	16.8	15.8	1	22	22	58	31	43
	2	17.6	17.2	16.7	41	24	28	35	30	19
	3	16.8	17.4	18.7	27	33	134	15	29	14
	4	20.3	18.1	17.2	39	23	16	39	30	23
	5	18.4	18.8	18.8	13	26	16	34	31	37
	6	19.5	19.3	20.8	25	35	25	25	36	46
5月平均/合計		18.4	17.9	18.0	146	163	241	206	187	182
1～5月平均/合計		12.1	10.8	11.0	606	685	542	930	860	880

注) 降水量については気象庁のアメダス（館山市）より引用

2 樹の生育

暖地園芸研究所における本年の温州ミカンの発芽期及び開花期を表2に示した。

発芽期は、「日南1号」及び「興津早生」が3月24日、普通温州が3月27日であり、平年と比べ「日南1号」で8日、「興津早生」で15日、普通温州で17日早かった。前年と比較すると、すべての品種で9日早かった。

開花盛期は、「日南1号」が5月1日、「興津早生」4月29日、普通温州は5月3日であり、平年と比べ、「日南1号」は7日早く、「興津早生」、普通温州は13～14日早かった。前年に比べ、「日南1号」で6日、「興津早生」で9日早く、普通温州は10日早かった。

本年の着花量は、暖地園研では普通温州でばらつきがみられた。

表 2 発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

品種	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南 1 号	3. 24	4. 1	4. 2	4. 25	5. 3	5. 4	5. 1	5. 8	5. 7	5. 5	5. 13	5. 10
興津早生	3. 24	4. 8	4. 2	4. 24	5. 7	5. 3	4. 29	5. 12	5. 8	5. 6	5. 17	5. 11
普通温州	3. 27	4. 13	4. 5	4. 29	5. 12	5. 9	5. 3	5. 17	5. 13	5. 9	5. 22	5. 16

注 1）平年：直近過去30年間の平均値（「日南 1 号」は平成27年～令和 4 年の平均値）

2）普通温州：「大津 4 号」と「青島温州」の平均値

3 6～7月の栽培管理

（1）夏肥の施用

早生温州（「興津早生」など）、普通温州（「大津 4 号」、「青島温州」など）ともに 6 月上旬に有機配合肥料を施用する。基準量は窒素、りん酸、加里を 10a 当たり成分量でそれぞれ、早生温州は 5 kg、7 kg、7 kg、普通温州は 5 kg、5 kg、9 kg とする。

（2）摘果

摘果は粗摘果と仕上げ摘果の 2 回に分けて行う。1 回目の粗摘果は、早生温州では 6 月下旬～7 月上旬、普通温州では（樹勢が低下している場合のみ）7 月上旬～中旬に葉果比 10～15 程度で行い、その後 8 月上旬～9 月上旬（粗摘果の 1 ヶ月後）に葉果比 25 程度に仕上げ摘果を済ませる。着果の少ない裏年の樹では粗摘果は控え、仕上げ摘果から行う。仕上げ摘果の基準は、1 果当り葉数で早生温州は 25～30 枚、普通温州は 20～25 枚である。

4 主な病気の防除

（1）かいよう病

かいよう病は、発芽前、落弁直後に防除を徹底する。多発園では、幼果実期の梅雨時期や台風前の追加散布を心がける。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布による薬害が起こりやすいので、銅水和剤散布後、2 週間は散布時期をずらす。

（2）そうか病

そうか病は、通風不良で降雨後に乾きにくい場所や、窒素肥料が効きすぎている園で発生しやすい。通風を良くし、施肥を適切に行い、樹勢を良好に管理するように努める。多発園では、発芽後（新芽が 1 cm 程度になった時）と落弁期での薬剤防除を徹底する。

（3）黒点病

黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。発生源は樹上・園内及び周辺の枯枝で降雨等による水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や薬剤防除を行う。登録のあるジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤の付着量は降雨のたびに減少するため、前回散布後の積算降水量が 200～250mm に達したとき、または約 30 日後の再散布が推奨されている。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の発行元 》千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

《 生育情報の問合せ 》千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>